

金生川遺構

《堤防の跡》



川之江町国道11号線沿い

戦前、金生川は、現在の流れではなく、栄橋付近から北に曲がり、11号線を流れていた。大雨などで、たびたび洪水を引き起こしていたため、流路付替え工事が1944年から1947年に行われ、現在の流路となった。

旧市民会館川之江会館の駐車場に「昔ここに川ありき」の碑が残されている。また、現在でも、11号線沿いには、石垣など堤防の跡が残っている。

《橋の跡》



《大師橋》 川之江町古町

駅通りから国道11号線を渡ったところに古町大師がある。その古町大師のブロック塀の角に「大師橋跡」の碑が立っている。川之江市誌によると長さ20間、幅1間4尺とある。地域の古老のお話では、木製の太鼓橋で、人や自転車が通る路面には土がまかれていたとのことである。



《中橋》 川之江町港通り

新町郵便局から国道11号線に出る細い道。国道をわたれば古町へ出ることができる。昔の中橋のあったところである。河原にかかる、小さな木製の橋であつたらしい。

右岸には旧金生川の石堤の名残がある。

ヴェスタ川之江店から鉄砲町へ向かっていくと、11号線との交差点がある。この交差点より20mほど下流のところに橋橋がかかっていた。木造の橋で川之江市誌に長さ31間、幅2間1尺とある。現在は道路の名残が見られ、国道より少し奥まったところに「橋橋之跡」の碑が建つ。

明治時代後半、現在の交差点のところに付けかえられ鉄橋となり「川之江橋」と呼ばれるようになった。